



第 72 回日本産科婦人科学会学術講演会

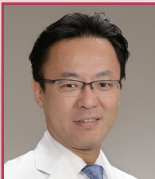
ランチオンセミナー 41

GSM (閉経関連泌尿生殖器症候群) に対する 炭酸ガスフラクショナル腔外陰レーザー療法の 現状評価と今後の検証



座長：寺内 公一 先生

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 茨城県地域産科婦人科学講座 教授



腔外陰レーザー療法の最新レビュー

演者

杉下 陽堂 先生

聖マリアンナ医科大学産婦人科学
聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター診断治療開発創薬部門 CRS 研究室講師

【ご経歴】 聖マリアンナ医科大学卒業。産婦人科指導医、女性ヘルスケア専門医、生殖医療専門医。同大学 産婦人科入局後、IVF なんばクリニック、アメリカ New York Medical college への留学を経て 2018 年より現職に就任。生殖・内分泌外来で不妊治療に従事すると共に、若年がん患者に対する妊娠性温存療法と女性ヘルスケア関連の研究・開発に取り組んでいる。

閉経関連泌尿生殖器症候群(GSM)は様々な更年期症状、生殖器症状(乾燥・灼熱感)、性的症状(潤滑性欠如、不快感)、泌尿器症状(尿意切迫、排尿障害)により特徴付けられ、閉経後女性における QOL 低下の一因となっている。GSM に対する一般的な治療法として局所エストロゲン療法があるが、治療終了後の効果持続は乏しい。炭酸ガスフラクショナルレーザーは GSM の治療法として米国 FDA の承認を受けて広まりを見せているが、日本ではまだ新しい治療法である。今回文献的レビューを行い、本レーザーのエビデンスを提供すると共に治療効果について考察する。



GSM 症状に対する炭酸ガスフラクショナル レーザー療法は有効か？

～ 1,000 例を超える自験例から得た結果を徹底検証する ～

演者

八田 真理子 先生

聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田 院長

【ご経歴】 聖マリアンナ医科大学卒業。産婦人科専門医。順天堂大学、千葉大学、松戸市立病院勤務を経て、1998 年松戸市にて聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田を開院。地域に密着したクリニックとして、思春期から更年期まで幅広い世代の女性の診療・カウンセリング、正しい知識の啓蒙活動に積極的に取り組んでいる。

加齢に伴い多くの女性が経験する GSM 症状に、市販薬などで対処し放置している女性は少なくない。当クリニックでは、2016 年 3 月から 1,000 例以上に炭酸ガスフラクショナルレーザー療法を行ってきた。平均年齢は 58.4 歳(25 ～ 92 歳)、治療前症状は「尿漏れ」「乾燥」「ゆるみ」の順に多く、半数以上が性器症状と尿路症状を重複していた。治療効果は、即効性であり改善度も満足度も高く、HRT 併用の有無に関わらず長期に及んでいた。一方で、米国 FDA が注意喚起を行った副作用や、トラブルは一例も経験していない。レーザー療法が、今後、GSM のスタンダード治療となり得るか議論したい。

2020
4/26 (日)

11:50 ～ 12:50

会場：東京国際フォーラム ガラス棟 5F G510

ランチオンセミナーはチケット制となります。事前参加登録サイトより整理券の先行予約ができます。<https://www.congre.co.jp/jsog2020/contents/training.html>